



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

2025年度 8月～12月

活動報告書 (0・1・2歳児クラス)



学校法人河野学園

ゆりのこ保育園

活動のテーマ

「光」

光に気付き、遊びや活動の中で興味を深め、関わろうとする

テーマの設定理由

ステンドグラスが特徴的なゆりのこ保育園。玄関にはステンドグラスの光が差し込むことにより、子どもたちは指をさしたり、見上げたり、光が映し出された場所を触ろうとしたりしています。子どもたちが興味を持っている「光」。活動の中で、様々な光に気付き不思議さや面白さをより体験することで、さらに興味や関心が持てる機会にしたいと思い、このテーマを設定した。

活動スケジュール

- 8月～9月：電気や自然光、水遊びを通して「光」に気付く
↓
- 10月：カラーセロファンを使った製作を行なう
↓
- 11月：作った製作を用いた活動や影踏み等を戸外遊びに導入し光や色への興味を深める
↓
- 12月：興味が深まった中で、プロジェクターを使用して、影絵クイズを行ない楽しめる活動を取り入れる

活動のための準備物 / 素材や道具・環境設定

- ・ カラーセロファン・水・電気・プロジェクター・懐中電灯・段ボール・ペンライト
- ・ iPhone・紙コップ・ペットボトル・色画用紙・鏡・普段遊んでいる玩具

光と関わる子どもの様子・気づき、保育者との関わり

【8月～9月 電気や自然光、水遊びを通して「光」に気付く】

0歳児クラス ひよこ組

《エピソード1》

オーボールを投げて遊んでいると、自分の足元にオーボールの影を発見。上からの照明が当たる角度によって、影が出てきたり消えたり…「どこだ？」と一生懸命影を探す姿が見られた。再び影を見つけると、今度はオーボールを振って影の動きを楽しんでいた。



《エピソード2》

自由遊びの時間、大きな鏡を床に置いてみると…天井に影が出現！動く影に興味津々な子どもたち。手を伸ばしたり、上を向いて不思議そうにしたりして見ていた。保育者が手を振ると影も一緒に動き、それを見て子どもたちも真似をして手を振っていた。ピースをして影が映る様子を楽しむ姿も見られた。



1歳児クラス りす組

《エピソード1》

保育室内の電気にカラーセロファンを貼ると、室内の色や電気の色が変わったことに気が付いた。指をさしながら「あ!」「お!」と声を出して周りにはいる保育者や他児に伝えようとしている姿が見られた。距離が遠かった為、保育者が抱き上げて近くで見せると興味津々で観察。色の名前が分かる児は「あか!」と言ったり、「きらきら!」とお友だち同士で話したりする姿が見られた。



《エピソード2》

ペンライトに星形に切り抜いた黒画用紙を入れてみると、「きらきら!」と言ったり、ランダムに色が変わったりすることに気が付いた。また、「あか」「あお」と気付いた色を言っていた。また、他児に見せてあげて「あお!」と教える姿も見られた。

色の名前が分からないときは「これは?」と質問をして、名前が分かると復唱して嬉しそうに眺めていた。



《エピソード3》

保育室の暗さを利用して、星形に切り抜いた段ボールや絵を描いた紙コップに光を当てて天井や窓に映し出した。不思議な表情を見せながらも「あ!」「アンパンマン!」「いた!」と指をさしたり、言葉を発したりしながら嬉しそうに眺めていた。絵が消えると「あれ?」と探して、再び映ると「あー!」「きゃー!」と目で追っていた。コットに横になったまま映し出された星をじっと眺める児や座って眺める児、指をさす児、微笑む児と様子は様々だった。



2歳児クラス こあら組

《エピソード1》

アンパンマンやトトロは、好きなキャラクターだったこともあり映し出された瞬間に「アンパンマンだ！」と大興奮だった。壁と玩具の距離を変えて映し出されたキャラクターの大きさや色の濃さを変えると「おおきくなった！」「ちいさい？なんで？」と不思議そうに話す児がいた。また、床に映すと「うわあー！」と言いながら足で踏もうとする姿が見られた。踏もうとしたときに足に映し出されると「あれー！」とキャラクターを踏めなかったことを疑問に思っている様子だった。



《エピソード2》

こあら組2歳児で育てていた、朝顔が満開になった為、花を摘んで色水作りを行なった。完成した色水をペットボトルや透明なコップに入れて遊んだ。そのときに太陽を通して見る色水が、キラキラと輝いて綺麗な色になることに気が付いた。

みんなで太陽に照らした色水を観察して「わぁ、綺麗なだね！」「綺麗な色！」「むらさきー」と嬉しそうに見つめていた。



【10月 カラーセロファンを使った製作を行なう】

2歳児クラス



魚の形をしたテープの台紙にカラーセロファンを貼り付ける製作を行なった。

カラーセロファンを光に透かして、「これは、きいろ」「みどりにしよう」と台紙に丁寧に貼り付けていた。魚の台紙がカラーセロファンで埋まってくると持ち上げて魚を動かして遊び始めた。遊んでいる途中で、部屋のライトに照らされて、テーブルの上に綺麗な色が反射していることに気が付いた。すると「わあ!」「きれいだー」と感動したり、「なんでだ?」と不思議そうに台紙をのぞき込んだりしていた。また不思議な現象を研究するように、テーブルに反射した色の上に手を置いてみたり、台紙を動かしてみたりして観察を楽しんでいた。

0歳児クラス



ネコとクマの虫メガネを保育者が作成をして、子どもたちに渡すと、カラーセロファンの部分に目を近づけて近くのものを見る姿が見られた。

晴れている日に虫メガネを持って園庭に出た。保育者が虫メガネを持って光を当てて、地面に色が映ると、真似をして隣でメガネを持ったり、影や色を見たりすることを楽しんでいた。

「あか!」「き!(きいろ)」と色を口に出して言っている児もいて、虫メガネで周りを見て喜んでいた。



【12月 プロジェクターを使用した影絵を見て楽しむ】

全クラス

様々な遊びや体験を通して「光」を感じながら過ごしてきた子どもたち。

最終イベントとして、光があることで「影」が生まれることを体験してもらえるように影絵を行なった。

スクリーンに映る手を使った影絵を見ると、「かたつむり!」「ねこ!」等、影を見て思いついた動物の名前を言って興味津々に見る様子が見られた。また、影が手で作られていることが分かると、保育者の真似をする姿が見られた。



ペープサートを使った影絵のおはなしでは、おはなしの中に登場した果物のシルエットを見て「ぶどう!」「バナナ!」等、イメージして問いかけに答える姿が見られた。影だった果物に色が付くと「わあ〜!」と驚くような声も聞かれて、光と影を楽しんでいた。

振り返り

日常の中に溢れている「光と影」だが、今回のすくわくプログラムをきっかけに、一年を通して遊びや製作をしながら、子どもたちと様々な体験をすることが出来た。遊びの中での気づきや発見を伝えたり、他者と共有したりすることの喜びや、「こうしたらどうなるのだろう?」とさらに遊びながら探求していく楽しさを感じる事が出来た様子であった。「あ!光ってるね!」「影が見える!」等の言葉が日常の中でも聞かれるようになり、様々な遊びをきっかけにして「光と影」を認識して意識する姿も見られるようになった。初めは保育者が主体になって遊びのきっかけを作っていたが、その遊びを通して次第に自分たちで遊びの幅を広げていき、気付いたことを嬉しそうに知らせようとする姿も見られるようになり、成長が感じられた。また、保育者も一つのテーマから様々な遊びを提案したり、イベントを計画したりすることが出来て、保育の幅を広げることが出来る経験となった。